

かつての千曲川を取り戻そう

砂礫河原を再生しています

道路河川課（内線3212）、国土交通省千曲川河川事務所（☎026-227-7611）

千曲川のいま

かつての千曲川は砂礫（砂と小石のこと）河原が広がり、そこに植物のカワラヨモギや鳥類のコアジサシなどの砂礫環境を好む固有の生物が生息していました。この砂礫河原こそが千曲川の原風景なのです。

しかし、現在は川と河原の高低差が大きくなったことから、河原が洪水で冠水することが少なくなりました。これが原因となり、河原にはニセアカシア（ハリエンジュ）などの樹木が繁茂し、砂礫河原が減少しました。

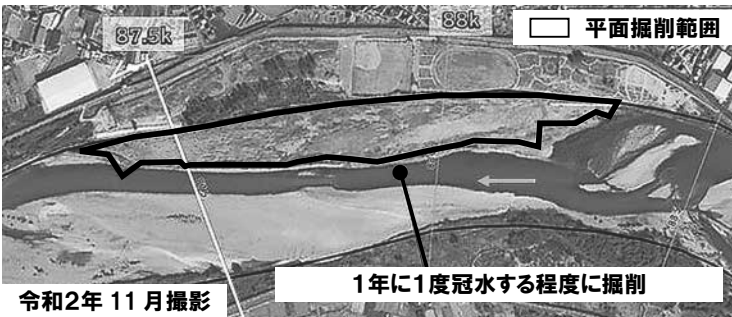
砂礫河原の再生は、固有種の生息範囲の確保や千曲川の原風景を創出するため、必要な取り組みです。



砂礫河原再生事業

国土交通省千曲川河川事務所では、沿川住民などの関係者や学識者と連携・協働しつつ、砂礫河原の保全・再生、外来植物の繁殖拡大抑制に効果的な河川管理手法を検討しながら、今後約10年間にわたり河道整正（河床の凹凸を整えること）による砂礫河原再生を計画しています。市内では、平成26年から28年にかけて、冠着橋上下流付近で再生事業が行なわれ、現在は、上徳間地区の大西緑地付近で行なわれています。

再生事業では、千曲川の土砂を掘削することで砂礫河原を再生し、樹林化を防ぎます。上徳間地区では、6・3万m³の土量を目標に掘削が進められています。上徳間地区が終わった後は、平和橋下流右岸の中区において再生事業が予定されています。



上徳間地区掘削横断図

